



第825号 2014年8月10日発行 日本共産党裾野支部

明るい裾野



小沢良一 tel 992-0875 fax993-8141 深良27-2
(ホームページ) http://www.16.plala.or.jp/ozawa_ryouti

岡本和枝 Tel/Fax992-5174 茶畑 854-3E101
(ブログ) 岡本和枝のひまわり畑 カバもいる
peace_love_cabird@yahoo.co.jp

党ができて9年間、弱い者、困っている人の味方—直線の共産党。

困ったことは小沢、岡本のなんでも相談へ

①初めての東北被災地訪問(投稿) ②悪法の医療・介護総合法 (3) ③9月議会

この夏、初めて東北被災地を訪問しました

一読者



①宮城県名取市関上地区

名取市の犠牲者 1000 人余りの内 700 人以上が関上地区での被災でした。5,000 人以上が住んでいたという港町の関上地区は、ほぼ更地になってしまっていました。がれきはきれいに片付けられていて、草が生い茂っていましたが、何軒か被害を受けたそのままの姿で残っている家もあり、津波の恐ろしさを黙って教えてくれているようでした。

関上中学校は地震が起きた時間で時計が止まっていました。全校生徒 150 人の内津波で亡くなったのは 14 人。その中の中学 1 年生で亡くなった男の子のお母



さんが、案内ボランティアをして下さり、涙なしには聞けないお話でした。

その日の午前中に 3 年生の卒業式があり、1・2 年生は下校し、3 年生と保護者は公民館で謝恩会をしていて、姉と母は助かり、息子さんは外でサッカーをしていて波にのまれてしまったそうです。関上地区では、津波は来ないと思っていた人が多かったのと、2 階建ての公民館から、3 階建ての中学校へ移動しようとして被災してしまい、犠牲者が多かったということでした。亡くなった 14 人の保護者が、子ど



もたち一人ひとりの名前を刻んだ慰霊碑を作るにあたり、子どもたちの名前をなでてほしいという思いで流線型の形にしたという話を聞いて、胸がつまりました。今まで死者〇名という数だったのが、一人ひとりの命を身近に感じ、心をこめてなでできました。

もう一人の語り部さんも、ご主人と息子さんを亡くされた 60 代くらいの方でした。あれから 3 年以上たち、やっとあの時のことを語れるようになったということと、復興という名の下に、人々から

あの日の記憶が薄れていくことのもどかしさのような、被災地の思



いを感じました。初めは被災地にカメラを向けることに躊躇しましたが、「どんどん写して県外の方に知らせて下さい。」と言われました。市では被災した建物は全て撤去する方針らしいのですが、閑上中学校の止まった時計だけでも残しておきたいと、息子を亡くされたお母さんがおっしゃってました。そういう被災者の思いに寄り添うような行政だったらいいのと思いました。

(2) 福島県相馬市松川浦のり養殖業の方のお話

のりの養殖が盛んだった松川浦では、放射線の数値が高いため、漁業を再開していないそうです。今は試験操業で、月に一回線量を量っています。お話の中で特に印象的だったのは、地下水を海に流していいかどうかを、東電が漁業組合に

聞いてくるということでした。一般組合員が話し合う前に、組合の数人の理事と



東電で結論を出してしまっていたことが発覚したこともあったそうです。「漁業者が判断するのではなく、国が判断してほしい。」とおっしゃっていましたが、本当にそう思いました。海は誰のものなのか、国は無責任すぎると思います。

(3) 福島県浪江町立

請戸小学校の奇跡

海岸から 500 メートルの請戸小では、児童 77 人と教員が全員無事でした。地震直後から津波を恐れて高台に避難。途中で保護者が引き取りに来ましたが、引き渡さずに全員で山越えをしたそうです。車いすの児童も教員がおぶって避難。保護者に引き渡さないという思い切った学校の判断に感心しました。

1 階に津波が押し寄せて来たということで、体育館の床や窓ガラスはめちゃくちゃでした。原発の警戒区域でもあるので、窓の外にはがれきと、黒いビニル袋が積まれていました。



(4) 原発被災地の問題

原発から 20 km の圏内と圏外では、東

電の対応に差があり、人間関係が微妙になっている。警戒区域が解除され、昼間は自宅に帰れるようになったので、初めは帰宅していたが、だんだんあきらめてきた。屋根の雨漏りから家の中が腐ったり、ねずみが繁殖したり、また雨と共に放射能も家の中に入ってきている。東電に言っても、家の中の除染までできないとのこと。除染した土を仮置き場に置いてあるが、仮と言いながらも移動するあてはない。線量は一軒ずつ測定して、避難を指定する。町全体・区全体で移動したいという希望は通らず、地域の絆がばらばらにされる。山の除染はしないため、雨が降るたびに川から海へ高い線量の放射線が流れる。

(5) 人のいない浪江町中心街

壊れた家屋・店舗がそのまま。



草が生い茂った線路。



3月12日の新聞が配達されず山積みになったままの新聞店。



案内して下さった方は、来年定年予定の高校の先生です。定年になったら、米作りをして、子どもの頃のように家の裏にある川で、やまめやアユを釣ってのんびり暮らすつもりだったそうです。その夢が原発によって打ち砕かれてしまいました。福島県は本当に自然いっぱいの穏やかな土地でした。その福島に空に今も放射能がまき散らされ、海にも流されている。「コントロールされている。」なんて言葉は大ウソです。

(読者からの投稿です)

医療難民・介護難民を出す ことは許されません！悪法 の医療・介護総合法 (3)



医療・介護総合法案を全野党が反対するなか自民党・公明党が強行採決（6月18日）しました。

「明るい裾野」では、2回に分けて、医療と介護の改悪の具体的内容を見て来ました。改悪された介護保険制度では、要支援者への訪問・通所介護を保険給付から外し、市町の事業に置き換えてしまいます。多くの自治体で『市町に受け皿はなく、サービスに格差が生じる』といっています。

裾野市はどのように対応するのか、介護保険課に聞いてみました。

現在、裾野市の介護保険は『第6次高齢者保険福祉計画』『第5期介護保険事業計画』（平成24年度～26年度）に基づいて実施されています。今年度が計画の最終年なので、団体選出と市民公募で16人の委員を募り、第7次と第6次の計画

づくりをします。この中で医療・介護総合法で変わった件の対応をします。

早速、静岡県主催で『第6期介護保険事業計画担当者会議』が7月31日に開かれたそうです。

でも、来年3月までに計画づくりで大変ではありませんか？ この計画で、介護保険料やホームヘルパー・通所施設・入所施設などのサービス量が決まります。意見を出していくことが必要です。

介護保険について、どんなことでも構いません、ご意見をお寄せください。



小澤良一議員の代表質問は 8月25日(月)午前11時頃から

9月定例会は決算議会です。8月19日に始まります。

21日は総括質疑、22日と25日は各会派の代表質問。

27日から3日間、厚生文教委員会の決算審査。9月2日から産建水道消防委員会、9月5日から総務委員会の決算審査です。

一般質問は9月11日からです。
みなさん、傍聴してください。